



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議

沖縄の経済的貧困からくる子どもの孤立に対して、

地域と民間団体は何ができるのか

実施報告書

日 時： 2017 年 7 月 11 日（火） 18:30-21:00
場 所： 那覇市ぶんかテンプス館ホール（沖縄県那覇市牧志 3 丁目 2 番 10 号）
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
共 催： 那覇市
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成

NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】子どもの未来県民会議地域円卓会議



■日 時：2017年7月11日（火）18:30-21:00
21:15～ 交流会
■場 所：那覇市ぶんかテンパス館ホール
■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：66名（NPO・市民団体、企業、行政）

■主 催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
■共 催：那覇市
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

喜舎場 健太 氏（沖縄子どもの未来県民会議 事務局長）

沖縄の経済的貧困からくる子どもの孤立に対して、地域と民間団体は何ができるのか

沖縄県で実施した平成27年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかになったほか、平成28年3月には、子どもの貧困対策の基本方向を定める「沖縄県子どもの貧困対策計画」を策定しました。そうした中、県民の総力を結集し、沖縄の未来を創造する子どもたちが安心して暮らせるよう、同年6月に県内各界各層の110団体からなる「沖縄子どもの未来県民会議」を設立し、子どもの学びと育ちを社会全体で支え、地域の実情に即した対策に取り組むこととしております。今回の円卓会議では、経済的困難を背景に子どもの様々な機会が奪われることから、子どもやその保護者の社会的孤立を防ぐには、地域や民間団体で何ができるのか、について一つひとつ事実を確認しながら、課題を共有する場（円卓会議）を持つとともに、県民会議で新たに実施する『子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業』の活用について、県民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思っております。

センターメンバー



喜舎場 健太
沖縄子どもの未来県民会議
事務局長



島村 聡
沖縄大学人文学部
福祉文化学科
准教授



松田 かなえ
一般社団法人
カナカナ
代表理事



末吉 正幸
那覇市
こどもみらい部
副部長



田嶋 正雄
沖縄タイムス
写真部
記者



石原 地江
中小企業家同友会
副代表

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 沖縄子どもの未来県民会議は、官民一体となって、子ども達の厳しい状況を踏まえ、子どもの貧困を解消していこうと2016年6月県民運動として立ち上がった、110団体で構成する県民運動
- 「子どもの貧困」とは、親の厳しい経済状況だけでなく、社会的孤立（家庭が孤立）、虐待等様々な悪いことがらが子どもに起こっていること
- 子どもの貧困率 沖縄 29.9%（H26年）、全国 13.9%（H27年）沖縄は全国の約2倍違い
- ひとり親世帯の貧困率 沖縄 58.9%（H26年）
- 子どもの貧困が生活に及ぼす影響
 - ・10万人当たりのDV相談件数（H26年度）沖縄 184件、全国 94.6件
 - ・10代の出産割合（H26年）沖縄 2.6%、全国 1.3%。沖縄は全国の2倍
- 子どもの貧困が成長に及ぼす影響
 - ・大学進学率（H27年）沖縄 39.8%、全国 54.4%
 - ・小学校の不登校児童数（児童千人当たり）（H26年度）沖縄 4.6人、全国 3.9人
 - ・高等学校の中途退学率（H26年度）沖縄 2.2%、全国 1.5%。沖縄は全国1位
- 子どもやその保護者の状態像からみえてくること
 - ・保護者は子どもと向き合う十分な時間を確保できない
 - ・子どもの頃から自分の希望が叶えられないという現実
 - ・子どもたちの学力や、心のなかにまで影響を及ぼしている（希望、自信がなくなっている状態）
- 地域・知人との関係についての調査（対象：小学生～高校生）。「地域の行政にお子さんと一緒に参加していますか」の問いでは、不参加の割合は困窮層が非困窮層より高い。「子育てや教育について悩みを相談できる友人、知人はいますか」の問いでも「いない」割合は、困窮層のほうが高く、社会での孤立がみえる。
- 子どもの自己肯定感（小学校5年生回答）の調査では、貧困世帯は非貧困世帯より2割程自己肯定感が低い
- 母子家庭の就業率、沖縄県 87.5%（H25年）、全国 80.6%（H23年）
- 子どもの貧困の問題を解消するために現在進められている行政、企業・地域の取り組み
 - 世帯の可処分所得（手取り収入）を上げる取組
 - ・行政、学校：子ども関係の給付（児童扶養手当、就学援助、高校生奨学のための給付金、大学進学のための給付型奨学金等）の充実等
 - ・企業、地域：非正規雇用の正規化、ひとり親の採用等
 - 子どもの不利益を改善する取り組み
 - ・行政、学校：放課後児童クラブ利用料を負担軽減。無料塾の設置等
 - ・企業、地域：モノレール料金の割引（企業努力で取り組んでいる）、子ども食堂等
- 沖縄県は予算4.6億円（H29年度）で市町村と一緒に、就学援助（直接厳しい世帯へ給付）を行っている
- 国は予算11億円（H29年度）で、市町村に支援員121人の配置と子どもの居場所134か所を設置
- 沖縄子どもの未来県民会議では、児童養護施設の子どもたちへの給付型奨学金等を行っている
- 一般社団法人カナカナでは、2016年度から内閣府の子どもの貧困対策事業費の一環で子どもの居場所「子ども元気ROOM」を運営している。南風原町の子たちを対象としている
- 「子ども元気ROOM」を利用する子どもは、親からの愛情を十分に受けていない、他の大人と関わる機会が少ない、食事のバランスがとれていない子が多い
- 「子ども元気ROOM」を利用する子どもは、学校や児童館等から行政に連絡された気になる子どもたちの中から、行政関係者、小学校の教頭先生、教育委員会、スクールソーシャルワーカー、貧困対策支援員、居場所のスタッフで決めている。本当に緊急を要する子が来ている。もともと家庭の状況を知った上で受入れをしている。定員15名。中学校、高校生で不登校になる前に対応するために、対象は小学生としている

事例の提供

- 日本の教育は自己負担。デンマークは、大学に入ると手当が貰える。教育に対する重きの置き方がちがう
- 県内の中小企業の中には、ランドリー店がリユースの制服をクリーニングするといった取り組みもある

視点の提供

- 経済的な部分だけがよくなれば、将来不安がなくなるといえるそうではない。社会の構造的な問題、教育システムや住宅の問題等も改善しないといけない
- 高校生や若い世代にテーマを設けて考えてもらう機会を作ってもいいのでは。若い世代のアイデアをいかす
- 連携を考えると各企業が地域に関わっていくことが大事

- 民間側が子どもの貧困問題を主体的に取り組むという機運が少ない
- それぞれの分野が貧困の状況を理解し、業界で抱えている問題とくっつけて、win-win の関係になるしくみが必要
- 夜、飲食店で働く女性は母子家庭が多い。支援者もないことが多く、深夜に子どもを預ける仕組みが必要
- 那覇市では、小学校単位のまちづくり協議会がある。まちづくり協議会で「地域の子どもたちのために動こう」といった地域もあり、子どもの貧困問題はまちづくりのきっかけにもなる
- 中小企業同友会の中では、子どもの貧困問題に関するアイデアは出るが、どこにどうつなげていいかわからない
- 貧困対策を一中小企業で行うことには限界がある
- 中小企業が、子どもの貧困問題に関する取組を個別には行っているが社会的にインパクトがでるまでは至っていない
- 必要なのはユニバーサルな取り組み。教育費の無償など、子ども自身が支援を受けていることに気づかないようにするべきではないか
- 子ども同士が主体的につながっている単位を、大人が分断する原因にならないほうがいい
- 県の子どもの貧困率は 29.9%だが、貧困のボーダーラインのところにとくさん人がいる
- 行政ができることと、民間ができることは何かを確認する必要がある
- 子どもの孤立からくる自己肯定感の欠乏、あきらめている状態は、いい大人に出会っていない影響が大きいのではないか。親の虐待に合っている、父親の酒のみ、兄弟が学校に行っていない等のマイナス体験を積み重ねた場合、そこから脱していくことを考えるとき、いい大人に出会うというのは効果的。例えば職親。家は荒れているが、雇用主が良い背中をみせ、仕事を教え、社会を教える。そのようなモデルがあるのはよい
- 自己否定とは「何をやってもダメ。自分は価値のない人間なんだ」という方向に向いている。肯定の方に向く作業をしないといけない。それには受け入れてくれる場と人が必要。そこを作っていくのが行政の仕事。地域はそれができる場でないといけない。すごいことをやる必要はない。ちょっとした声かけでもいい
- 貧困は線引きができない。だれでも陥る可能性はある。それをユニバーサルの視点で拾っていくには、気運を横に広げていくことが大事

➤ 今後のアプローチの方向性（提案） ※本円卓会議と 7 月 19 日（水）中部開催の円卓会議より作成

- まずは、子どもの貧困と孤立の関係性を官民で課題共有し、行政でやるべきこと、民間でやること、協働して行うべきこと、それぞれの事業イメージを共有すべき。
- 子どもの貧困に関する民間連携事業にインパクトを出すためには、持続性はもとより機運作りも重要。事業を通して抽出した課題や事業手法が、行政事業へもフィードバックされるような協働も求められる。
- 沖縄地域は、一つ困難があると貧困状態に陥ってしまう所得層が分厚い。民間事業といえども、支援を受ける子どもと受けられない子どもの分断をさせないことを意識した、ユニバーサルサービスの視点が必要となる。
- 企業や地域等、民間組織との出会いと学習の場をつくったり、ニーズと解決策とそれを動かす資源をつないでいく視点が必要。そこに地域の主体性をどう促すべきかを協議すべき。
- 子どもの居場所事業は、孤立している子どもが「さまざまな大人」と会える場所。この場所を、社会参画機会が担保され、持続性のある地域づくりを目指す新たな拠点として、再定義し活用していこう。
- 県内すべての子どもが安心してゆっくり大人になるための条件（権利の保証）を抽出・定義し、県民で共有して行く必要がある。
- 「子ども支援は指導ではない」。常に、子どもの意思を尊重し、子どもが普通でいられるように接し、子どもの立場に立って支援していく姿勢が求められている。

■参加者によるサブセッション

「沖縄の経済的貧困からくる子どもの孤立に対して、 地域と民間団体の連携で何ができるのか」(原文のまま)

○企：人材不足&ミスマッチングの解消

×

子：困難を抱えた子どもの自立支援（インターン、住宅支援等

×

行：インセンティブ（税金安、補助金ではない、奨学金もらえる、等）

+ベーシックインカムも要件等！（市民力、地元の人の活用も

○子供の居場所+地域の人々の能力

○企業と地域課題を繋ぐコーディネーター

○企業と子ども支援団体をつなぐシステム（企業へのアンケート調査から）

○経済的な要因だけではない。大人が線引きをしない。ユニバーサルであるべき。教育の無償化。グローバル化。ヤマトに追いつけという姿勢でなくてよい。ストレス生むだけ

○教育特区

沖縄独自の教育。一人ひとり子どもそれぞれに合わせた進め方で教育をすべき。

学業保育に金かかりすぎる

○沖縄の人が勉強して参加する人が少ない

○住民の情報を地域が知っている！その情報から必要な支援については、民間（自治会やその地域にある団体）が窓口になって、支えていくことができないか

○地域の情報

あの家最近みないよー。食事とれていないかもよー → 民間団体が食事提供の窓口になって家庭に届けていく

○地域の中でも子供達は全部同じように扱う対応する（これもユニバーサル？）

○地域や周りの大人が当たり前のように助けてあげる

環境

○地域のコミュニティづくり

→ 自治会加入。地域の祭りなどに企業等がもっと関与していく

○ビジネスモデルのコンテスト

○携帯会社へのアプローチ

○高校生からの提案を受ける

○県民会議に子どもの参加を！

→ チャレンジ ← 行政（しくみ）

↑民間支援

○企業同士のつながりは難しい。職親（インターシップ）。資金を集めてから取り組む

○そもそも必要な人に情報が届かないこと。コミュニティやつながりが消失していることにニーズあり。そこの支援を民間が関わる仕組みがあれば。

○就学援助に多額の広報費を税金でまかなっていることなど（人件費等支援にまわしてほしい）行政には限界。

○制度外のニーズに取り組むチャレンジ精神を持つ／民間。そういう企業法人を探す／行政

○職親

○他人ごとではなく個人とし何ができるか。コミュニケーション、近所の子供は自分の子

○たくさん大人の背中を見せることで色々な人生を選ぶことができる

○自己責任の話になるが自分自身のためにやるメリット

○伝統文化に着目して中高生への投げかけ。主として考えられるような場の必要性

○DV。男性の経済力

○家庭支援。どう習慣を変えて行くか

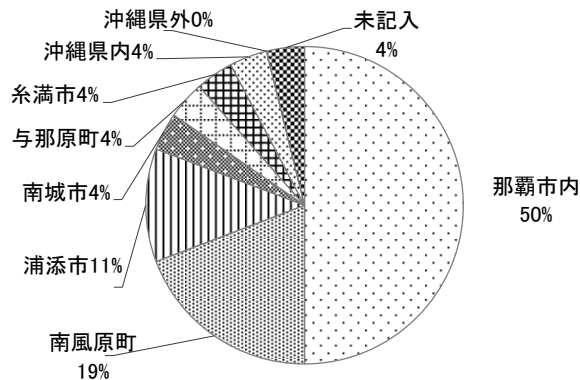
○心の貧困も大きい

沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 参加者アンケート集計

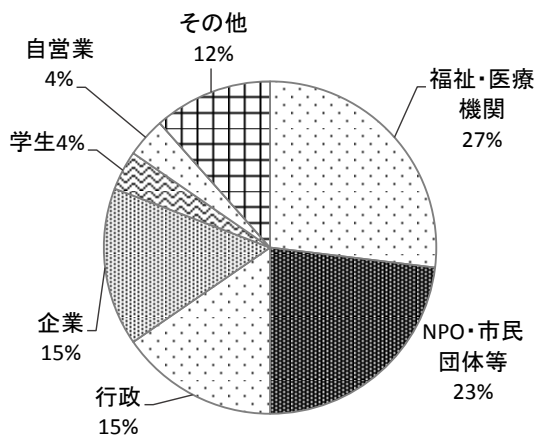
◆概要

- ・日 時：2017年7月11日（火）18:30～21:00
- ・場 所：那覇市ぶんかテンブス館ホール
- ・着席者：8名（司会、記録含む）
- ・参加者：66名（アンケート回収26名、回収率39%）

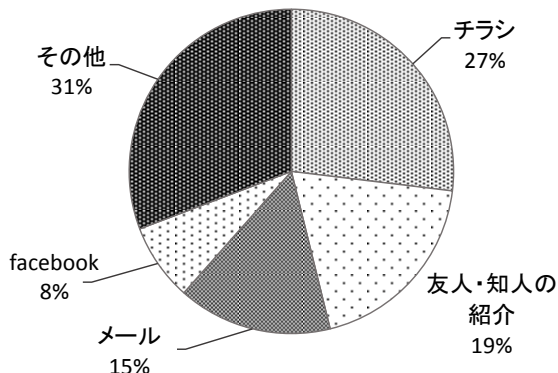
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.3（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足していない	1. 不満足
11名	12名	1名	1名	0名

※未記入1名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・話の内容が普段とちがってものすごくギャップを感じました。新しい発見がありました。今、私にもできることはあるし行動してみようとも思いました。大人だけが考えていることを若い世代も一緒に解決していけると思った。
- ・県のあちらこちらで活動し活動しようとしている方との集まりで情報交換できたことはとても心強いですし、良かったです。

- ・具体的かつ多面的な視点の議論ができた。

- ・共感が力を合わせるポイントを気づかせてくれる。

（4. 概ね満足）

- ・子どもの貧困に対して、なぜ貧困といわれている状態となっているのか、どのような取り組みがあれば貧困を解消できるのかということについて情報を得ることができ、考える機会となった。

- ・こんなにもたくさんの人々が参加していることが、支援が広がることにつながると思います。社会的にも注目を集めている時期だからこそ発信していくことが大事だと思いました。気づく→行動できるよう、息の長い取り組みにしていきたいです。（継続した取組を期待しています）

- ・様々な視点からこのテーマを議論するのは良いと思います。異なる視点が新鮮で勉強になります。日常では考えたり見たりすることができない事実を知ることは新たなアイデアにつながると思います。

- ・だれかの困っているところを、社会の課題と考えること、みんなで考えていくこと、考えを出

し合っていくこと、それが、「解決策」にたどりつくかどうかよりも大事なことと思った。

(3. ふつう)

- ・南部地域の多くの支援の輪を感じた。継続性を持つ事業づくりを心がける。

(2. あまり満足してない)

- ・着席者による討論の機会がなく不完全燃焼

6. 印象に残ったこと

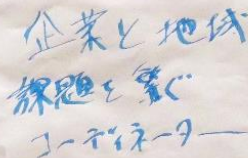
- ・“構造”が貧困につながるということ。市や企業が何か起こそうとしていること。自分たちは何かできる!チャンスと思ったこと。
- ・民間は、自分の力を最大限発揮できるようよく自分を知り、制度外のニーズに取り組む勇気をもっていこうと思いました。
- ・就職+高校生や子どもたち+伝統工芸など、いくつも沖縄らしい取り組みができると思います。
- ・子どもの貧困は社会・地域のおとなのソフトな力・面がとても大事である。良いおとなの背をみることで、認めてくれるおとなに出会う。
- ・高校生の意見。子どもによる子どものための取り組み
- ・大人がよい手本を示す
- ・学校を利用して居場所づくりしたほうがよい
- ・「よい大人に会う」。

子どもは環境の中で育っていくと思うので、自身自身の未来に希望がもてるようになると思います。すべての子どもが出会うことのできる“学校”が重要だと思っています。(保育園、幼稚園も、、、) そこからいろいろな情報をキャッチして子どもたちの支援につながるというの。・“ユニバーサルなサービス”の受けている事を子どもが気づいていない事というのが良いなと思いました。子どもはとても敏感なので、福祉の支援(利用者や対象者が決まっているもの)等では、なかなか難しい場面もあると感じます。

(写真) 会場の様子



概観
個人事ではなく個人として何か
している。コニエーショ／
近所の公園口自由会
のていどの下人の背中で見せている
色あはれな花の葉にたがって
責任を話しているとき、自由会
のいへきマリア
伝統文化に賛意で中高校生
投げてたまはて 解いたまはた
端の電燈



⑤ 人材不足 & ミスマッチの
解消
④ 困難を共に
する
自立支援
③ 多様な
バリエーション
② 社会安、社会を
支える人々
① ベンチャーイノベーション 検討!!
+ 社会力
地元の力

住民の情報は地政が知り、
正確な情報が必要に7月1日
月間(自治会と地政による関係)
が窓口にて、入居していくことができた

(4) 町長(市役所)
町の職員、最近家賃は一
般急激に上がった。一
般市民が「家賃増」の窓口にて。
実現は難しい。

結論

- ①地域の中で子どもが送るは全部同じように振う対応する(おまかせ)
- ②地域を回り大人が当たり前に助けてあげる環境づくり

シジメスモク^ニ
2-921
接帯会館 107004
高校 4440
接帯E 543